

○津軽森林管理署金木支署の「採材等現地検討会」に出席しました。

青森事務所では毎年、森林管理署等の採材検討会に参加し、技術指導や情報提供などを行うことで、国有林材を円滑・効果的に活用するよう努めています。

令和5年10月11日（水）に青森県北津軽郡中泊町の袴腰山国有林で開催された「令和5年度 採材等現地検討会」に、青森事務所から2名出席してきました。

当日は晴天のなか、林業関係団体や署管内の林業事業者など総勢31名の参加を得て開催され、今回の採材検討会ではヒバと広葉樹の採材について検討を行いました。津軽森林管理署金木支署長の挨拶後、青森事務所からは需要動向についての説明とともに、スギ等針葉樹の4m採材の推進や適切な仕訳の徹底、広葉樹やヒバの定尺にこだわらない一般材の採材や作業日報の電子管理によってボトルネックの解消を行う「生産性向上の取組」、労働安全等について協力をお願いしました。続いて、署の担当者から昨年度の生産・販売実績、広葉樹やヒバ等の採材方法、留意点等について説明があり、その後、実際の採材の検討に移りました。事前に試供木として用意したヒバ3本と広葉樹2本（ミズナラ）を対象に3班に分かれ各班でそれぞれの試供木について採材検討を行いました。検討後、それぞれの班から採材案の説明があり、ヒバについては青森県木材協同組合、広葉樹については青森県森林組合連合会より、採材の解説がありました。また、採材の解説をする中で腐れや割れの深さを確認するため、実際に試供木の造材を行いました。1番玉に割れが入ったヒバ試供木については、その割れが深く、伐倒時に一番価値のある1番玉に割れが入らないよう気を付けて欲しい旨指摘があり、限られた資源を大切に扱っていくことを参加者間で再認識しました。最後に青森事務所から、有利採材の推進と労働災害の防止に努めるよう安全についての講評をさせていただき、採材検討会を終了しました。

青森事務所では今後も採材検討会や労働災害防止協議会へ積極的に参加し、国有林材の有効な利用と労働安全に貢献して参りたいと考えています。



（ヒバの採材解説）



（広葉樹の採材検討）